

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|------------------|---------------|
| 平成 29 年 2 月 14 日 | |
| 所属部局・職 | 霊長類研究所・修士課程学生 |
| 氏名 | 川口ゆり |

| |
|---|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 日本、京都大学 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 心の先端研究ユニット年次総会参加 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 29 年 2 月 12 日 |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 京都大学 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 心の先端研究ユニット総会に参加し、「ヒト以外の動物も赤ちゃんが好き？」というタイトルで発表を行った。今回、私は霊長類研究所でおこなっている実験をはじめて発表した。この実験は2週間ほどのデータしかないため、以前の研究で発表することも考えたが、修士一回生のあいだに学部時代の研究は何度も発表していたので、新鮮な気持ちで発表できるようにとこのテーマでおこなった。ポスター発表は個人的には普段の学会のものよりも面白く、いつもは自分のポスター前に立っている時間が長いですが、今回は聴きたい発表が多かったのでそちらを重視した。それでも時間が足りないと感じた。内容を詳細に記すことは省くが、今回私が発表したのはチンパンジーは同種のアカンボウとオトナの動画のどちらを見ることを選択するかという実験だった。それに対し、順化の影響で「アカンボウ(オトナ)」の動画に飽きてより新奇な「オトナ(アカンボウ)」を選択するようになるといった選好性のシフトがあるとすればそれをどのように評価するのかという質問があった。一つ一つの動画に飽きてしまう可能性は考えていたが、カテゴリーそのものに飽きる可能性は考えていなかったため、なるほどと感じた。発達研究を行う方かならでの視点だと思った。普段、霊長類研究以外の研究者と話す機会があまりないため、ほかの心理学研究をしている若手研究者とお話する機会は非常に有意義だった。 |
| 6. その他 (特記事項など) |
| 今回の発表はPWSプログラムの支援を受けておこないました。厚くお礼申し上げます。 |